

フィンランド語文法：上級⑤

分詞構文（1）

「フィンランド語との対話—吉田欣吾」

<https://yoshidakingo.com/>



分詞構文とは

- 分詞構文とは **että**-節に相当する内容を分詞を使って表現する構文のことである。

Luulen **Liisan lähtevän** huomenna.

= Luulen, **että Liisa lähtee** huomenna.

Liisaは明日出発すると私は思う。



分詞構文とettä-節の違い

●分詞構文

Luulen **Liisan lähtevän** huomenna.

●että-節

Luulen, **että Liisa lähtee** huomenna.

●① että-節の主語が分詞構文では属格。

② että-節の動詞が分詞構文では分詞の属格。



現在分詞と過去分詞（1）

- 現在分詞は述語動詞と同じとき、あるいは未来の出来事を意味する。

Luulen **Liisan lähtevän** huomenna.

= Luulen, **että Liisa lähtee** huomenna.

Liisaは明日出発すると私は思う。

- lähtevän という現在分詞は述語動詞 luulen よりも未来のことを表している。



現在分詞と過去分詞 (2)

- 過去分詞は述語動詞よりも過去（以前）の出来事を意味する。

Luulen **Liisan lähteneen** eilen.

= Luulen, **että Liisa lähti** eilen.

Liisaは昨日出発したと私は思う。

- **lähteneen** という過去分詞は述語動詞 **luulen** よりも過去のことを表している。



能動分詞を使う分詞構文—練習（1）

- 分詞構文に直してみる。

Alex huomaa, että Milla menee suihkuun.

アレクスはミッラがシャワーに入るのに気づく。

Milla tietää, että Alex syö mielellään pizzaa.

ミッラはアレクスが好んでピザを食べることを知っている。

Luuletko, että minä joudun helvettiin?

私が地獄に落ちると君は思うのか。

En muistanut, että paprika maistuu näin voimakkaalta.

パプリカがこんなに強い味がすることを私は覚えていなかった。

能動分詞を使う分詞構文（1）—練習

解答

- 分詞構文に直してみる。

Alex huomaa **Millan menevän** suihkuun.

アレクスはミッラがシャワーに入るのに気づく。

Milla tietää **Alexin syövän** mielellään pizzaa.

ミッラはアレクスが好んでピザを食べることを知っている。

Luuletko **minun joutuvan** helvettiin?

私が地獄に落ちると君は思うのか。

En muistanut **paprikan maistuvan** näin voimakkaalta.

パプリカがこんなに強い味がすることを私は覚えていなかった。

能動分詞を使う分詞構文—練習 (2)

- 分詞構文に直してみる。

Miro uskoo, että bändi on saanut hyvän rumpalin.

ミロはバンドが良いドラマーを得ることができたと思っている。

Kuulimme, että Kalle oli käynyt pianotunneilla.

我々はカッシェがピアノレッスンに通っていたと聞いた。

Luulen, että kaikki ovat jo palanneet jo Tampereelle.

皆すでにタンペレに帰ったと私は思う。

Me luulimme, että he olivat muuttaneet Turkuun.

彼らはトゥルクへ引っ越したと我々は聞いた。



能動分詞を使う分詞構文 (2) 一練習

解答

- 分詞構文に直してみる。

Miro uskoo **bändin saaneen** hyvän rumpalin.

ミロはバンドが良いドラマーを得ることができたと思っている。

Kuulimme **Kallen käyneen** pianotunneilla.

我々はカッシェがピアノレッスンに通っていたと聞いた。

Luulen **kaikkien palanneen** jo Tampereelle.

皆すでにタンペレに帰ったと私は思う。

Me luulimme **heidän muuttaneen** Turkuun.

彼らはトゥルクへ引っ越したと我々は聞いた。



分詞構文と所有接尾辞（1）

- 文全体の述語動詞の主語と、分詞の主語が同一の場合には、分詞の前に属格の名詞は置かず、所有接尾辞をつける。

Luulen, **että lähden** huomenna.

= Luulen **lähteväni** huomenna.

「私は明日出発すると思う。」

lähteä > 現在分詞 lähtevä > 属格 lähtevän + -ni > lähteväni 

分詞構文と所有接尾辞 (2)

- 文全体の述語動詞の主語と、分詞の主語が同一の場合には、分詞の前に属格の名詞は置かず、所有接尾辞をつける。

Luuletko, **että olit** oikeassa?

= Luuletko **olles**si oikeassa?

「君は自分が正しかったと思うのか。」

olla > 過去分詞 ollut > 属格 olleen + -si > olles



所有接尾辞を伴う分詞構文—練習（1）

- 分詞構文に直してみる。

Jari sanoi: "Olen pahoillani."

ヤリは「申し訳ありません」と言った。

Te huusitte: "Me haluamme lähteä heti kotiin."

君たちは「私たちはすぐに家に帰りたい」と叫んだ。

Antti uskoo, että hän tekee oikein.

アンツティは自分が正しいことをしていると信じている。

Minä tiedän, että olen oikeassa.

私は自分が正しいことを知っている。



所有接尾辞を伴う分詞構文—練習（1）

解答

- 分詞構文に直してみる。

Jari sanoi **olevansa pahoillaan**.

ヤリは「申し訳ありません」と言った。

Te huusitte **haluavanne** lähteä heti kotiin.

君たちは「私たちはすぐに家に帰りたい」と叫んだ。

Antti uskoo **tekevänsä** oikein.

アンツティは自分が正しいことをしていると信じている。

Minä tiedän **olevani** oikeassa.

私は自分が正しいことを知っている。



所有接尾辞を伴う分詞構文—練習 (2)

- 分詞構文に直してみる。

Sinä muistat, että näit Kallen soittamassa kevätjuhlissa.

カッレが夏の祭典で演奏するのを見たことを君は覚えている。

Luulimme, että olimme antaneet hänelle jo avaimet.

我々は彼にもう鍵を渡してあると思った。

Antti uskoo, että hän teki oikein.

アンッティは自分が正しいことをしたと信じている。

Minä tiedän, että olin oikeassa.

私は自分が正しかったことを知っている。



所有接尾辞を伴う分詞構文—練習解答

- 分詞構文に直してみる。

Sinä muistat **nähneesi** Kallen soittamassa kevätjuhlissa.

カッレが夏の祭典で演奏するのを見たことを君は覚えている。

Luulimme **antaneemme** hänelle jo avaimet.

我々は彼にもう鍵を渡してあると思った。

Antti uskoo **tehneensä** oikein.

アンッティは自分が正しいことをしたと信じている。

Minä tiedän **olleeni** oikeassa.

私は自分が正しかったことを知っている。

